

令和4年8月24日

印旛地区教育研究集会

国語科「書く」分散会提案

研究主題

自分の考えや思いを適切に表現し，伝え合う児童の育成
～表現力を育てる指導の工夫～

四街道市立大日小学校

1 研究主題

自分の考えや思いを適切に表現し，伝え合う児童の育成
～表現力を育てる指導の工夫～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

国語科の目標は，次のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに，言語感覚を養い，国語の大切さを自覚し，国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力は，連続的かつ同時的に機能するものである。とくに，「伝え合う力」を高めるためには，「A話すこと・聞くこと」，「B書くこと」，「C読むこと」に関する「思考力，判断力，表現力等」を通して，自分の考えを形成するとともに，言葉の特徴や使い方，情報の扱い方，我が国の言語文化に関する「知識及び技能」を身に付け，様々な場面で主体的に活用できるようにする必要がある。

日常生活の中で，言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力，豊かに想像する力を求められる場面は多々ある。また，人と人との関係を築く中では，互いの立場や考えを尊重し，言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力も重要である。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標 自ら学び心豊かでたくましい児童の育成（開拓者魂）

めざす児童像 だれもが元気大日っ子
いつもチャレンジ大日っ子
ここにこなかよし大日っ子
ちせい豊かな大日っ子

大日小の学区である鹿放ヶ丘は，戦後食料増産のために開拓された地域である。開拓者たちは寝食をともにし，固い団結力で開拓を進めた。本校では，児童が地域に受け継がれる開拓者としての精神をもち，日々の幸せを感じる心，幸せを求める心と体を育むことを目指している。そのためには，児童がより主体的な学びの姿勢を身に付ける必要がある。また，他者との関わりから，互いを認め，高め合うことも重要である。

(3) 児童の実態から

本校の児童は、明るく、活発で、伸び伸びと様々な活動に取り組める児童が多い。

昨年度まで、見通し・まとめ・振り返りを中心とした研究に取り組み、基礎基本の定着を図ってきた。その中で、自分の思いや考えを言葉や文にすることが苦手な児童が多く、言葉や文字で発表することに対して抵抗感をもっている児童が多いことが分かった。また、思いを相手に伝えることが難しかったり、相手の思いを受け止める力が十分でなかったりするため、互いのすれ違いが生じ、トラブルに発展することも度々ある。

これらのことから、本校児童の課題である表現力や人間関係づくりへの課題を解決したいという願いと、学習指導要領・学校教育目標が合致すると考え、言語活動の基盤となる国語科を研究教科とし、とりわけ「表現力」の向上を研究主題として設定した。

3 研究仮説

<仮説1> 語彙を増やしたり、基本的な話型を定着させたりすることで、自分の考えや思いを表現することができるだろう。

児童の実態から、「どのように話したり、書いたりしていいのかが分からない。」「自信がない」という思いをもっている児童が多数いることが分かった。つまり、言葉を知らなかったり、話し方や書き方の基本が身に付いていなかったりすると考えられる。そこで、自分の考えや思いを表現する土台として、語彙と話型の習得を目指したいと考えた。

[手立ての例]

- ・言葉集め
- ・獲得した語句を使った文作り
- ・場に応じた基本的な話型や書き方の練習
- ・順序を表す言葉や接続語の活用

<仮説2> 目的意識を明確にした言語活動を工夫すれば、自分の思いや考えをもって伝え合うことができるだろう。

思いや考えを伝え合うためには、相手に「伝えたい」という思いをもつことが必要である。そこで、目的を明確にした言語活動となるよう工夫することで、自分の思いや考えを伝える意欲が高まると考えた。

[手立ての例]

- ・指導計画における学習のねらいの明確化
- ・言語活動のモデルの提示
- ・並行読書
- ・異学年との交流

4 授業実践① 2年生

1 単元名 生きものクイズ大会をひらこう

(主な学習材：「生きもの」クイズをつくろう 教育出版)

2 単元の目標

- ・読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。〔知識及び技能〕(3)エ
- ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2)ア
- ・文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- ・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

生き物クイズを作る。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ウ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元では、上記単元の目標を踏まえ、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことを基にクイズを作成し、クイズ大会を開くという言語活動を設定した。

児童はこれまでに、簡単な構成の説明文を読むことを通して、「問い」「答え」「補足説明」の関係について学習をしてきた。第1学年「だれがたべたのでしょうか」の学習では、六種類の動物から好きな動物の一つを選び、動物の口や目等の体の一部を見せて何の動物なのかを質問する(問い)、動物の名前(答え)、口や目などがどうしてそのようなつくりになっているのか(補足説明)をまとめたクイズの作成を行い、「問い」「答え」「補足説明」の関係について理解を深めている。そして、本単元の学習は、第3学年「クラスの『生き物ブックをつくろう』」へとつながっていく。

本単元の言語活動の特徴は、大きく二点ある。言語活動の一つ目の特徴は、書くことを集める“取材”である。そのために、図書資料を活用し、興味のある生き物についての情報を集める。情報を集めていくうえで、何の生き物のどんな特徴について一番興味があるのかを明確にさせるようにする。情報をメモする際は、文章の中の重要な語と文を考えて

選び出すことを意識させる。また、一文をできるだけ短く書かせるとともに、「何が」「どのように」をはっきりさせて書くよう指導する。そして、集めた幾つかの情報を比較して、クイズに適した内容を選ぶ。言語活動の二つめの特徴は、クイズの“構成”である。今回作るクイズの形式は○×クイズか、三択クイズであり、それぞれの「問い」と「答え」の書き方について学ぶ。「補足説明」に関しては、「何が」「どうすると」「どうなるか」等、主語と述語に気を付けて書くように指導する。クイズができれば読み返し、「問い」と「答え」と「補足説明」が対応したものになっているかを確認し、よりよい表現に直す習慣を身に付けさせる。このような言語活動を行うことで、書こうとする題材に対して、必要な事柄を集め、そこから重要な語や文を選び出す“取材”の力と、「問い」「答え」「補足説明」の関係を意識して、相手に伝わりやすいクイズを作成する“構成”の力を身に付けさせる。

(2) 児童の実態 (26名)

1 国語の学習では、何が好きですか。(複数回答)			
・書写	18名	・聞くこと	18名
・読むこと	17名	・書くこと	14名
・話すこと	17名	・漢字	16名
2 動物・虫の本や図鑑を読むことは好きですか			
好き	15名 (58%)	どちらかというときらい	9名 (34%)
どちらかというときらい	1名 (4%)	きらい	1名 (4%)
3 今までどんな動物・虫の本を読んだことがありますか。(複数回答)			
・犬	10名	・猫	7名
・あり	4名	・魚	4名
・マンボウ	2名	・ヘビ	2名
・トラ、ねずみ、馬、シマウマ、カバ、カメ、トカゲ、カニ、チーター、ライオン、キリン、ゾウ、くま、カエル、コブラ、サメ、コオロギ、ヒヨコ、サソリ、セイウチ、スズムシ、クジラ、ガゼル	各1名	・だんごむし	7名
		・さる	3名
		・クラゲ	4名
4 クイズやなぞなぞは好きですか。			
好き	22名 (84%)	どちらかというときらい	0名 (0%)
どちらかというときらい	0名 (0%)	きらい	1名 (4%)
5 動物や虫についてのクイズやなぞなぞをつくらたいですか。			
つくりたい	22名 (85%)	つくりたくない	4名 (15%)
6 クイズやなぞなぞを自分で作ることはできますか。			
できる	13名 (50%)	どちらかというときらい	2名 (7%)
どちらかというときらい	2名 (7%)	できない	3名 (12%)

7 自分についてクイズをつくりましょう。(○×クイズまたは三択クイズ)		
○×クイズのみ作ることができた	4名 (15%)	
三択クイズのみ作ることができた	7名 (27%)	
両方作ることができた	14名 (54%)	
一問も作ることができなかった	1名 (4%)	
<p><児童が作った問題></p> <p>①わたしが一番好きな果物はさくらんぼである。○か×か。</p> <p>②わたしが好きな花は何でしょう。1 さくら 2 スミレ 3 タンポポ など</p>		
8 これらの情報を使ってクイズをつくりましょう。(○×クイズまたは三択クイズ)		
<p>①マンボウが一回に産むたまごの数は3億個。</p> <p>②ニジマスが一回に産むたまごの数は1500個から3000個産みます。</p> <p>③日本にはじめてやってきたパンダの名前は、カンカンとランランです。</p> <p>④生まれたばかりのパンダの赤ちゃんの体は、桃色です。</p> <p>⑤ナマケモノという動物は、アメリカに住んでいます。</p>		
	○×クイズのみ作ることができた	4名 (15%)
	三択クイズのみ作ることができた	3名 (12%)
	両方作ることができた	15名 (58%)
	一問も作ることができなかった	4名 (15%)
<p><児童が作った問題></p> <p>①マンボウが一回に産むたまごの数は100億個である。○か×か。</p> <p>②うまれたばかりのパンダの赤ちゃんの体の色は？ 1 桃色 2 水色 3 白 など</p>		

本学級は、明るく活発で、素直な児童が多い。また、外国にルーツのある児童がとても多く、中国、タイ、バングラディシュ、ナイジェリア、韓国、イランと多種多様である。中には、日本語がほぼ読めない、書けない、話せない児童もいる。日本人の中にも、国語を苦手としている児童が多い。国語科の学習を進めるうえで、支援が必要な児童が多い学級である。

問1から、14名の児童が「書くこと」を好んでいるのに対して、12名の児童がそうではないことが分かった。また、国語の学習において、「書くこと」を好んでいる児童が、一番少ないことも分かった。普段の様子を見ていても、自分の考えを書くことが難しい児童が見られる。登場人物の気持ちを書かせる時等、個人差がとて大きく、支援しなければ何も書くことできない児童が数名いる。書き始めが分からない、語彙が少なくどう表現したらよいか分からない等、書くことに対して抵抗感を感じているようだ。問2、3からは、動物や虫などの生き物に対して、児童の興味・関心が高いことが分かる。問4、5からは、児童がクイズやなぞなぞが好きであること、そして、ほとんどの児童が、自分でク

イズを作ってみたいと感じていることが分かった。しかし、クイズを「つくりたくない」と答えた児童が4名おり、この4名は、問6の質問においても、自分でクイズを作ることが「どちらかというといけない」「できない」と答えている。書くことに対して自信がないことにより、クイズを作るという活動に対して消極的なのではないかと考えられる。

問7では、自分に関する〇×クイズ・三択クイズを作成した。ほとんどの児童が、自分を題材にして、〇×クイズか三択クイズのどちらかを作ることができていた。〇×クイズと三択クイズがどのようなものなのかを理解しているようだ。クイズを作ることができなかった児童は1名で、この児童は2月に中国から編入してきたため、日本語を話すこと、書くことはまだ難しい。したがって、多くの支援が必要となる。問8では、与えられた五つの情報を基に、〇×クイズ・三択クイズを作成した。ほとんどの児童が、情報を基に〇×クイズか三択クイズを作ることができていた。作ることができなかった4名の児童のうち、3名が外国籍である。情報を基にしたクイズではなく、動物の名前だけを使って、間違えた情報でクイズを作っていた。やはり「情報を活用して書く」ということは、児童にとって難しいことなのだと分かった。

(3) 指導観

・人材の活用

①学校司書との連携

学校司書と連携をし、効果的に学習を進められるようにする。図書資料から情報を得る体験は、第1学年の生活科「いきものとなかよし」の学習以来であり、経験がとても少ない。そのため、たくさんある本の中から1冊を選び、さらにその本の中から必要となる情報を集めることを、難しいと感じる児童が多くいると思われる。あらかじめ、児童にとって情報を得やすい図書を、学校司書と選定することで、児童がスムーズに情報を集めることができるようにする。今回は51冊（別紙参照）の図書を選定した。

《仮説2》

②日本語指導教員との連携

外国籍の児童にとって、自分の力で情報を集め、クイズにすることはとても難しい。本校の日本語指導教員と連携をし、そのような児童に対しての支援の充実を図る。

・環境の工夫

①学習の計画表

「生きものクイズ大会をひらこう」を単元の学習のゴールとして、学習計画を立てる。それを掲示することによって、児童が見通しをもって学習にのぞむことができるようにする。

《仮説2》

②選定図書

児童が生き物について情報を得るための選定された図書を、いつも児童が読むことができる場所に置く。そうすることで、児童が進んで読書に取り組めるようにする。ま

た、図書の表紙には、どのようなクイズを作ることができるのかを書いたカードを貼っておくことで、児童がクイズを意識しながら図書を読むことができるようにする。

《仮説 2》

③質問コーナー

語彙を増やす取り組みとして、「質問コーナー」を設ける。分からない言葉があるときは、青い付箋にその言葉を書き、質問コーナーに貼らせるようにする。そして、その質問の答えを教師が毎時間赤い付箋に書いて貼るようにする。そうすることで、児童が“言葉”と“言葉の意味”を知ることができ、語彙を増やす助けとなるようにする。

《仮説 1》

・情報収集の手立て

①モデル文

本単元の教材文には、図書から得た情報をまとめたメモが、学習のモデルとして載せてある。そのメモは『かんさつ名人になろう⑥だんごむし』という図書から情報を得たという設定になっている。しかし、情報を得た図書の原文は教材文には載っていない。そのため、『かんさつ名人になろう⑥だんごむし』をあらかじめ準備し、原文のどこからどのように情報収集し、メモに書いたのかを提示する。そうすることで、図書からの情報収集の仕方について身に付けさせる。

《仮説 1》

②図書一覧

選定した図書 5 冊を、一覧にまとめたものを児童一人一人に配付する。その一覧に、ページを書き込めるスペースを作るようにし、気になったページを記録しておくことができるようにする。そうすることで、メモを書く際に、スムーズに活動に臨むことができるようにする。

《仮説 2》

③情報収集の視点

情報収集の視点として、“何の生き物”の“どんな特徴（体のつくり等）”について一番興味があるのかを明確にさせるようにする。“どんな特徴（体のつくり等）”については、情報を 1 つに絞らせるようにする。そのため、①興味をもった生き物について書かれた図書を読み、気になったページを図書一覧に記録する。②記録したページの中から 1 番興味があるページを選ぶ。③選んだページから、その生き物に“どんな特徴（体のつくり等）”があるのか、情報を 1 つ選びメモをする。④いくつかのメモの中からクイズに適したものを 1 つ選ぶ。この順で学習を進め、情報を精選する能力を身に付けさせる。

《仮説 1》

④メモの書き方

図書から得た情報をメモを書く際は、原文のどこに重要となる語と文が書かれているのか考えながら書かせるようにする。また、その際に「何が」「どのように」等、主語と述語を落とさずにメモするように指導する。できるだけ短い文でまとめるため、常体で書かせるようにする。

《仮説 1》

- ・クイズ作成の手立て

- ①補足説明の書き方

「補足説明」をまとめる際は、主語と述語を意識させるようにすることで、分かりやすい説明を書く力を身に付けさせる。また、常態ではなく、敬体で書かせるようにし、クイズを出す相手（友達）を意識することができるようにする。 **《仮説1》**

- ②クイズを作る順番

「補足説明」を先にまとめさせる。その中から重要となる語が何なのかを考えさせることで「答え」を決めるようにし、答えを含む重要となる文を「問い」として、短い文でまとめさせるようにする。「補足説明」→「答え」→「問い」の順で作ることにより、3つがきちんと対応したものになるようにする。 **《仮説1》**

- ・ワークシートの工夫

- ①生きものメモ

“生き物メモ”は、調べた生き物の「名前」、「特徴」「調べた図書」の3点について記録する。「特徴」を記入する欄には、主語を書く枠を作っておき、主語を意識して書くことができるようにする。また、「調べた図書」とページを書いておくことで、情報を正しく書くことができているか確かめることができるようにする。

《仮説1》

- ②クイズ作成シート

実際にクイズを友達に出す時に使用するワークシート作成のため、相手を意識した分かりやすい文章を書く必要がある。そのため、“生き物メモ”と同様に、「補足説明」の欄には、主語を書く枠を作っておき、主語と述語を意識して書くことができるようにする。また、「答え」と「問い」を作る際は、○×クイズか三択クイズのどちらかを選ぶことができるようにし、児童が作りやすい形式で、楽しみながらクイズを作成することができるようにする。 **《仮説1》**

- ・個別の支援

外国籍の児童、難聴の児童、国語を苦手としている児童が多くいる。書いたメモやクイズを毎時間見て、児童の理解度を把握する。理解度によっては、重要となる語や文などについてヒントを与えるなど、活動をスムーズに行うことができよう支援する。

- ・ペア学習における構成の配慮

クイズの作成後に友達と協力して、「問い」「答え」「補足説明」がきちんと対応しているかを推敲する時間を設ける。しかし、能力については個人差が大きいため、能力や人間関係を考慮してペアを構成するようになる。そうすることで、話し合いに意欲的な児童から刺激を受けたり、ヒントを得たりすることができ、自分の考えをもつことができるようにする。 **《仮説1》**

・日常活動

毎週金曜日に日記の宿題を出している。それに対してコメントを書いたり、書き方が上手な日記を紹介したりすることで、書くことに対する抵抗が少しでもなくなるようにし、児童の書くことに対する意欲を高めることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)</p> <p>②共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p>	<p>①「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。(C(1)ウ)</p> <p>②「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>③「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。(B(1)イ)</p>	<p>①積極的に必要な事柄を集めたり確かめたりし、学習の見通しをもって「生き物クイズ」を作ろうとしている。</p>

6 指導と評価の計画（全 10 時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	○「生き物クイズ大会」 をすることを知り，学 習の見通しをもつ。 〈題材の設定〉	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が作成したクイズブ ックを提示することで， 児童の学習に対する興 味・関心を高めることが できるようにする。 ・クイズが「問い」「答え」 「補足説明」で構成され ていることを確認する。 	
第二次	2 3 4 5	○クイズにしたい生き物 について詳しく調べ る。 ○調べた内容をメモに書 く。 ○クイズにしたい内容を 選ぶ。 〈情報の収集・内容の検討〉	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と調べるのではな く，どんな生き物の何に ついて調べているのかを 明確にさせる。 ・一文を短く書かせる。 ・補足説明を書くことを確 認し，詳しく書かれてい るクイズに適した情報を 選ぶよう助言する。 	<p>[知識・技能①] <u>観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった内容に付箋を貼 り，情報を集めようとしてい る様子 <p>[知識・技能②] <u>メモ①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある生き物の特徴につ いて理解し，集められた情報 <p>[思考・判断・表現①] <u>メモ①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」「答え」「補足説明」 の3つにまとめることができ る情報
	6	○生き物クイズの構成 と，○×クイズ・三択 クイズのそれぞれの書 き方について知る。 〈構成の検討〉	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズが「問い」「答え」 「補足説明」の構成にな ることをあらためて確認 する。 	<p>[思考・判断・表現②] <u>ワークシート①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語，述語に気を付けて，分 かりやすくまとめられた「補 足説明」の記述
	7	○生き物クイズの「補足 説明」を，主語・述語 に気を付けて分かりや すくまとめる。		

	8 ・ 9 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○補足説明の中から、重要な語を選び、それを基にクイズの「問い」と「答え」を書く。 〈考えの形成・記述〉 ○「問い」「答え」「補足説明」が対応しているかを確認する。〈推敲〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・補足説明の中の重要となる語を確認することで、クイズを作成しやすくする。 ・推敲する場を設け、よりよい表現に直す習慣を身に付けさせる。 	<p>[思考・判断・表現③] <u>ワークシート①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・補足説明と対応するかたちで書かれた「問い」と「答え」の記述 <p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察・ワークシート①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりを通して「問い」「答え」「補足説明」が対応しているか見直し、より良い表現に直そうとする様子
第三 次	10	<ul style="list-style-type: none"> ○「生き物クイズ」を出し合う。 ○友達のクイズの「すごい」を探しながら聞く。〈共有〉 ○学習を振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解答者である友達の反応を感じることで、自分が作ったクイズのよさを感じたり、達成感を味わったりする。 	

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・「補足説明」と対応させて、「答え」や「問い」を短い言葉で書いている。

[思考・判断・表現]

- ・友達との関わりを通して「問い」「答え」「補足説明」が対応しているか見直し、より良い表現に直そうとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
2	1 本時の学習と学習のめあてを知る。	・学習計画から、本時の流れを確認する。	学習計画表
	生きものクイズの「こたえ」と「とい」を作ろう。		
2 5	2 「答え」と「問い」を作るという課題に取り組む。	・○×クイズでは、正解が○の場合と、×の場合の時の「問い」を提示し、違いを確認する。	○×クイズ 三択クイズ ワークシート

- ・〇×クイズと三択クイズのそれぞれの「答え」と「問い」の書き方について確認する。
- ・答えとなる重要な語を何にするか決める。
- ・重要な語を含む文について確認する。

<〇×クイズ>

- ・答えを〇にするのか×にするのか決める。
「せいかいは、〇です。」
「せいかいは、×です。」
- ・問いを作る際、答えを〇にする場合は、答えとなる重要な語をそのまま書く。
- ・問いを作る際、答えを×にする場合は、答えとなる重要な語を別の言葉に置き換える。
- ・「問い」と「答え」は短い言葉でまとめる。

<3択クイズ>

- ・答えを①②③のどの番号にするか決める。また、その他の2つの答えは、問いに対してあてはまらないものを考えるようにする。
- ・問いをつくる際、生き物の名前以外を答えにする場合は、主語（生き物の名前）を必ず書くようにする。
- ・問いをつくる際、生き物の名前が答えになる場合は、主語（生き物の名前）を入れないようにする。
- ・「問い」と「答え」は短い言葉でまとめる。

- ・三択クイズの「問い」と「答え」を提示し、答えとなる重要な語を①②③のどれかにすること、また、その他の番号が、問いにあてはまらないものにすることを確認する。
- ・「問い」と「答え」は、短い言葉で書くように指導するが、相手を意識して文末は敬体で書くように助言する。
- ・正解となる重要な語を先に考えさせることにより、その後の問いを作りやすくする。
- ・「問い」をつくる際、答えが生き物の名前になる以外は、必ず生き物の名前を入れることを確認する。
- ・〇×クイズと三択クイズ、どちらか好きな方の形式でクイズを作成することができるようにする。
- ・〇×クイズができたなら三択クイズにも挑戦させたり、メモを基に別の生き物についてのクイズを作らせたり、それぞれの能力に合わせて活動できるようにする。

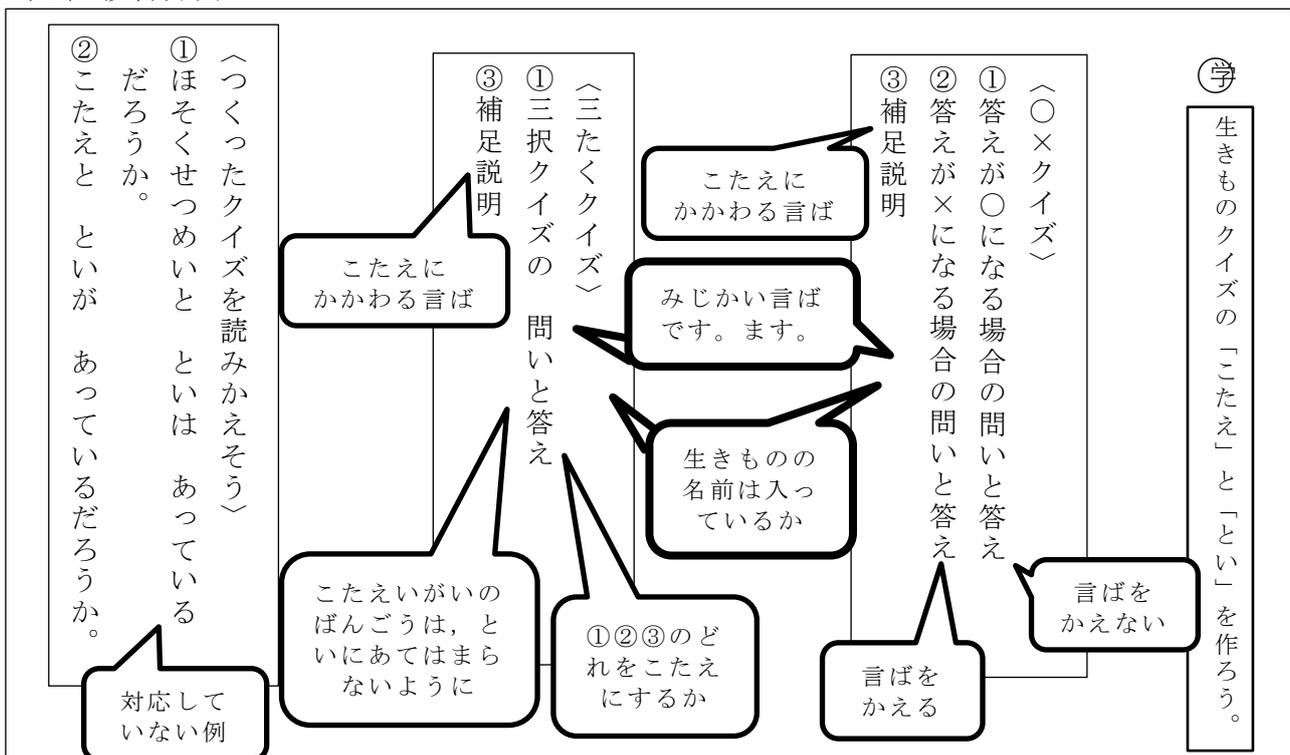
○ワークシート① [思考・判断・表現③]

《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》

- ・事前に児童の理解度を把握し、答えとなる重要な語がどれなのか、補足説明にサイドラインを引く等してヒントを与える。
- ・外国籍の児童については、日本語指導教員とあらかじめクイズを作るようにし、穴埋めやなぞり書きを行う。

<p>1 5</p>	<p>3 ペアごとに、「問い」と「答え」と「補足説明」が対応しているかどうか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「補足説明」をよく読み、その生き物について理解したうえで、「問い」が「補足説明」と関連する内容になっているかを確認する。 ・「問い」と「答え」がきちんと対応しているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアでクイズを交換するのではなく、二人で一つのクイズを見るようにし、協働で推敲できるようにする。 ・推敲の視点として、まずは「補足説明」と「問い」が対応しているかどうか。次に、「問い」と「答え」が対応しているかどうか。この2点について確認するように助言する。 <p>○観察・ワークシート①</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度①]</p> <p>《「努力を要する」と判断した児童生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの視点を確認し、順に推敲するように助言する。 ・次時は、クイズ大会であることを伝え児童の意欲を高める。 	<p>推敲の点</p>
<p>3</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表に沿って、「問い」と「答え」を作成することができたか、確認する。 		

(3) 板書計画



5 授業実践② 6年生

1 単元名 ファンタジー作品を読み深めよう

(主な学習材：きつねの窓 教育出版)

2 単元の目標

- ・思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすることができる。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

[知識及び技能] (1)オ

- ・人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C(1)エ

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] C(1)オ

- ・言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

3 本単元における言語活動

自分なら「窓」を通してどのようなものが見えるか考えまとめる。

(関連：[思考力, 判断力, 表現力等]C(2)イ, B(2)ウ)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、物語『きつねの窓』を通して、登場人物の心情の変化を読み取り、「窓」についての自分の考えをまとめる活動を行う。『きつねの窓』は、登場人物である「ぼく」が日常の世界から不思議な世界に入り、また日常の世界に戻ってくるという構成の物語で、ファンタジー作品の典型的な特徴が表れている。作者の安房直子の作品は、空想的・幻想的な短編ファンタジーが多く、不思議な世界がどのような意味をもつのかを考えながら読み進めていくことができる。

これまでの国語科の学習を通して、児童は、4年時に「白いぼうし」、5年時に「雪わたり」でファンタジー作品に触れてきている。その中で、情景描写や比喩などの表現の工夫と効果に着目し、登場人物の心情を読み取る活動を行ってきた。

本単元では、登場人物の心情の変化を読み取りつつ、ファンタジーの世界がどのような意味をもつのかを考えていく。その後、物語の世界観から想像を広げ、自分の経験を振り返って考えをまとめることで、さらに読みを深めていきたい。全体を通して、児童同士が互いの意見を交流し、様々な考えに触れることで、ファンタジー作品の奥深さや面白さを味わえるようにしたい。

(2) 児童の実態 (29名)

1 国語の学習は得意ですか。		【理由】	
とても得意	0名	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習が好き ・文章を読むことは苦手 ・長文を読むのが苦手 ・書くのは好きだが読むのが苦手 ・自分の考えを書くのが苦手 	
どちらかといえば得意	10名(34%)		
どちらかといえば得意ではない	13名(45%)		
あまり得意ではない	6名(21%)		
2 進んで読書をしていますか。			
している	8名(28%)		
どちらかといえばしている	10名(34%)		
どちらかといえばしていない	9名(31%)		
していない	2名(7%)		
3 どんな種類の本を読みますか。(複数回答)			
物語	19名	その他	漫画 20名
伝記・歴史	4名		小説 6名
推理小説	7名		
図鑑	8名		
4 ファンタジー作品は好きですか。		【理由】	
とても好き	5名(17%)	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろい ・実際に起きたら、と考えられる ・想像が難しい ・現実ではありえない 	
どちらかといえば好き	13名(45%)		
どちらかといえば好きではない	6名(21%)		
好きではない	5名(17%)		
5 自分の考えを書くことは得意ですか。		【理由】	
とても得意	2名(7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことが好き ・うまく表すことができない ・考えるのが苦手 	
どちらかといえば得意	3名(10%)		
どちらかといえば得意ではない	15名(52%)		
得意ではない	9名(31%)		
6 自分の考えや思ったことなどを話すのは得意ですか。		【理由】	
とても得意	2名(7%)	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを話すことが好き ・言って伝えることが難しい ・どのように伝えたらよいかわからない 	
どちらかといえば得意	3名(10%)		
どちらかといえば得意ではない	11名(38%)		
得意ではない	13名(45%)		
7 安房直子「やさしいたんぼぼ」の話から、①～③について読み取る。			
	①登場人物の気持ち	②音・におい	③様子
できる	29名(100%)	29名(100%)	26名(90%)
できない	0名	0名	3名(10%)

8 「やさしいたんぼぼ」の話を読んで自分の思ったことや考えたことを書く。		
できる	25名 (86%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ねこがかわいそうだった。 ・たんぼぼのおかげで助かってよかった。 ・動物を捨ててはいけないと思った。
できない	4名 (14%)	<ul style="list-style-type: none"> ・無回答

本学級の児童は、明るく素直で、じっくりと物事に取り組める児童が多い。学習で困った時には、互いに教えたり、助言をしたりする姿も見られる。しかし、全体での発問に対する反応や皆の前での発表になると自信がもてず、肯定感の低い児童や消極的な児童が多く見られる。また、集団での指示だけでは内容が伝わりにくく、個別の声かけを必要とする児童も数名いる。

問1から、国語の学習を苦手とする児童が約7割を占め、「文章を読むのは苦手」、「長文を読むのが苦手」という意見は、「どちらかといえば得意」と答えた児童も含めて多く見られた。問2, 3の結果や普段の朝読書の様子から、ある程度読書に親しんではいるものの、挿絵のある物語や漫画が中心であることが分かる。

問4では、これまで学習した「白いぼうし」や「雪わたり」を挙げ、「空想的・幻想的な世界を描いた作品＝ファンタジー作品」と説明した。非現実的な部分の面白さを肯定的に受け止める児童が約6割いる一方で、「嘘をつかれている感じがする」「わかりづらい」など否定的な捉え方をする児童もいることが分かった。そこで、問7, 8では、「きつねの窓」の作者である安房直子の絵本を使い、ファンタジー作品を読み取る力を調べた。(物語全体の読み聞かせをした後、ある場面の絵を提示し、①～③の項目についてワークシートに記入する形で実施) その結果、どの項目についても、自分なりに想像したことを言葉にできる児童がほとんどであった。問5では、書くことを苦手を感じる児童が約8割を占めているものの、十分な時間の確保と指導・支援の工夫をすれば、考えを整理し、表現できると考えられる。また、問6でも、自分の思いを話すことを苦手を感じる児童が約8割と多いため、書くことによって考えを視覚化し、相手に伝える内容を明確にしていく必要がある。

(3) 指導観

・並行読書ができる環境

学校司書との連携のもと、校内の図書や市内図書館の蔵書から安房直子の作品を集め、教室で読める環境を作る。本単元で取り上げる「きつねの窓」の他にも、安房直子の著書に触れることで、ファンタジー作品の特徴や面白さに気付くきっかけにする。

・絵本を使った導入

本単元の導入では、教科書の掲載文ではなく、絵本の「きつねの窓」(いもとようこ・絵)を読み聞かせし、物語の内容を印象づけ、あらすじをつかめるようにする。文章の読

解を苦手とする児童やファンタジー作品を好まない児童でも、イメージがしやすくなり、作品を読みたいという意欲につながると考える。

- ・教師見本の提示

本単元は、物語の内容をふまえ、自分なら「窓」を通してどのようなものが見えると思うか考えをまとめる学習であることを導入時に伝える。さらに、文章を読み取った後、自分の窓のことについて考える活動に入る前に、教師見本を示す。そうすることで、見通しが持てるとともに、自分で考えをまとめていく時の素材選びや文の構成の理解につながり、円滑に学習に臨めると考える。

《仮説 2》

- ・挿絵の提示

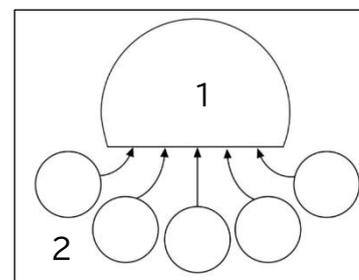
第2時以降は、絵本ではなく、教科書を使って学習するが、板書やワークシートで挿絵を随時提示しながら進めていく。場面ごとの読み取りをしていく中で、物語の世界観を想像し、登場人物の気持ちを捉えるための素材の1つになると考える。

- ・思考ツールの活用

ワークシートに思考ツールを取り入れることで、物語の全体像や登場人物の気持ち、変容を視覚的にわかりやすく整理できる。

本単元では、第5～7時にクラゲチャートを使用する。クラゲチャートは、理由づけや関係づけを整理する際に用いられることが多い。今回は、クラゲの頭の部分(図1)に「窓」を通して見えるものをあてはめ、クラゲの足の部分(図2)にその場面と関わる音やにおい、様子、登場人物の気持ちを整理していく。

また、「きつねの窓」を自分に置き換えて考える際にも、同じ形式のワークシートを用いることで、物語の内容を基盤としながら進めていけるようにする。特に、これまでの経験や心に残るものは、個々で違いがあるため、それぞれの項目についてより具体的に記入するよう促す。《仮説 1》



- ・他教科との関連

図画工作科の時間を使って、自分が「窓」に見えると思うものを実際に絵に表す活動を行う。互いに発表し合う際に主となるのは、あくまでも文章だが、具体的なイメージを形に表すことで、文章化しやすくなる児童もいるだろう。また、他者と交流する際に自分のイメージが伝わりやすくなるとも考えられる。

- ・3～4人の小グループでの活動

自分の考えを書いてまとめたり、話して伝えたりすることを苦手とする児童が多いため、全体での発表に向けて、3～4人で意見交換したり、助言し合ったりする機会を設け

る。内容が十分整理できていても自信が持てず消極的になってしまう、自分の考えが浮かばず先に進めないなど、児童によって様々なつまづきが予想されるため、組み合わせについては、教師が考慮する。

《仮説2》

・振り返りカードの記入

授業の最後に学習した内容や自分の感想、気づきなどをカードに記入し、振り返る時間を確保する。次時の学習にもつながるよう、書く内容について観点を伝え、まとめることが苦手な児童には、文例を示して取り組みやすくする。毎時間、同じ活動を積み重ねることで、自分なりに考えをもち、自分の言葉でまとめる力につなげたい。また、個々の学びの成果を見取る材料としても活用する。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにしている。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。((1)オ)	① 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。(C(1)オ)	① 進んで、物語を読んで作品の全体像を捉え、学習したことを想起しながら、自分の考えをまとめようとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間）

学習過程	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一次	1	○ファンタジー作品の特徴について知る。 ○「きつねの窓」の全文を読み、学習の見通しをもつ。	・物語の内容や世界観を捉えやすくするため、絵本の読み聞かせで導入を行う。 ・「自分が『窓』を持っていたら、どのようなものが見えると思うか考える」という単元のゴールを知らせる。	

第二次	2・3	○子ぎつねに対する「ぼく」の心情の変化をまとめる。	・「ぼく」の心情を捉えやすくするため、いくつかの場面を取り上げ、行動や会話に着目できるようにする。	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート① ・登場人物の相互関係や心情などを捉えた記述
	4	○不思議な世界に行ったことによって、「ぼく」にどのような変化があったのか話し合う。	・「子ぎつね」に対する「ぼく」の見方や考え方から、変化に迫れるよう促す。	〔知識・技能①〕 様子・ワークシート② ・物語を通した「ぼく」の変化に関して話し合う様子
	5	○「窓」に映ったものについて「子ぎつね」の観点で整理する。	・登場人物(子ぎつね)の気持ちを整理するため、クラゲチャートを活用する。	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート③ ・「子ぎつね」の気持ちや「窓」に映ったものについての記述
	6	○「窓」に映ったものについて「ぼく」の観点で整理する。 ○「窓」に映るものの共通点についてまとめる。	・登場人物(ぼく)の気持ち、変容を整理するため、クラゲチャートを活用する。 ・「窓」に映るものは、どのような意味を持っているのかについて押さえる。	〔思考・判断・表現①〕 ワークシート④ ・「ぼく」の気持ちや「窓」に映ったものについての記述 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 様子・振り返りカード ・「窓」に映るものの意味について自分の言葉でまとめる様子
第三次	7本時	○「きつねの窓」を自分が持っていたら、どのようなものが見えるか考える。	・自分にとって、大切なもの、強い思いのあるものを具体的に想像し、整理できるよう、クラゲチャートを活用する。 ・「窓」で見えると思うものの具体的な理由も考えるよう助言する。	〔思考・判断・表現②〕 ワークシート⑤ ・自分の「窓」に映るものと理由についての具体的な記述

8	<p>○「きつねの窓」を自分が持っていたら、どのようなものが見えると思うか文章でまとめる。</p> <p>○自分の想像した「窓」について発表し、友達と交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートをもとに、文章を組み立てるための要点を押さえる。 ・友達との交流を通して、様々な「窓」の受け止め方があることに気付けるよう、絵を見せながら発表するよう促す。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度①〕</p> <p>観察・振り返りカード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達との関わりを通して、「窓」について考える様子、記述 <p>〔思考・判断・表現②〕</p> <p>ワークシート⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「窓」に関する自分の考えをまとめた記述
---	--	---	---

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。

〔思考・判断・表現〕

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「窓」には、今はないものが映る。 ・自分にとっての大切な思い出や強く思っているものが見える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「窓」に見えるものの共通点について確認し、本時の内容につなげる。 	<p>掲示物</p>
<p>自分なら、「きつねの窓」にどのようなものが見えるか考えよう。</p>			
15	<p>2 自分が「窓」を通して見えると思うものについて考え、ワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「窓」を通して見えるものとその理由を考え、箇条書きで記入することを伝える。 ・具体的に記入できるよう、「音」、「におい」、「様子」、「自分の思い」等、書く視点を提示する。 ・つまずきの見られる児童には、イメージした絵を確認し、言葉が引き出せるような声かけを行う。 	<p>クラゲチャート 教師見本 イメージした絵</p>

5	3 ワークシートを互いに見合い、交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達との交流を通して、よい点を見付けて伝えたり、具体的に書いている点を参考にしたりするよう促す。 	
1 2	4 ワークシートや交流したことを基に、自分の考えを付け加える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「窓」の様子が友達にも具体的に伝わるように書くことを確認する。 ・クラゲチャートが出来上がった児童には、内容を文章で整理していくよう促す。 <p>○ワークシート⑤〔思考・判断・表現②〕</p> <p>《「努力を要する」と判断した児童への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いた言葉を使いながら、教師見本の書き方を参考にしよう助言する。 	クラゲチャート ワークシート
8	5 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りの観点を伝え、具体的に書くよう声をかける。 ・次時は、本時のワークシートの内容をもとに、文章にまとめていくことを伝える。 	振り返りカード

(3) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ・音 ・におい ・様子 ・自分の思い 	<p>窓に映るもの↓</p> <p>今はないもの 大切な思い出 強く心に残っていること</p>	<p>「子ぎつね」の観点で まとめたクラゲチャート</p> <p>「ぼく」の観点で まとめたクラゲチャート</p>	<p>⑤</p> <p>自分なら、「きつねの窓」にどのようなものが見えるか考えよう。</p> <p>きつねの窓</p> <p>安房 直子</p>
---	---	---	--

6 成果と課題

＜仮説1＞ 語彙を増やしたり，基本的な話型を定着させたりすることで，自分の考えや思いを表現することができるだろう。

- 2学年の実践で取り組んだ「質問コーナー」は，言葉とその意味を個々が理解することで語彙が増えるだけでなく，1つ1つの言葉を意識して活動に取り組むきっかけにもなった。また，単元の学習中は，常時掲示をしておくことで，全体でも共有することができた。
- 書く活動において，教師見本を提示したことで，書く順序や文末表現を意識したり，複数の内容を対応させて書いたりすることができた。
- 同じ型のワークシートを繰り返し用いて書く活動を積み重ねることで，徐々に書き方の要点がわかり，自分の考えや思いを進んで表現しようとする姿が見られた。
- 伝える目的，相手，形式（メモ，クイズ，スピーチ等）といった様々な場合に応じて，身に付けた言葉・話型をどのように活用していくかが課題である。国語科の授業だけでなく，日頃から，たくさんの言葉に触れ，それを意識して使う場面を設ける必要がある。
- 書くことが苦手な児童にとっては，高学年であっても，言葉をつなげて文章にしたり，文章全体の構成を考えたりするのが難しい傾向が見られた。そのため，表現方法が分かるような掲示物やヒントカードなどがあると活動の助けになると思われる。

＜仮説2＞ 目的意識を明確にした言語活動を工夫すれば，自分の思いや考えをもって伝え合うことができるだろう。

- 単元の学習に入る際に，学習計画表を提示して全体の流れを伝えることで，活動の目的を意識したり，内容の見通しをもって意欲的に取り組んだりできた。
- 最終的な目標（クイズを作る，自分の考えを文にする等）に向けて，短い言葉で書き留めたり，内容を整理して簡単にまとめたりしながら，段階的に活動を積み重ねることで，書くことに対する抵抗感や苦手意識のある児童も取り組みやすくなった。
- 学校司書との連携により，単元の学習に関わる図書を豊富に準備でき，言語活動の充実につながる環境づくりができた。
- 獲得している語彙，文章の構成力や表現力の個人差が大きいため，児童同士の交流を増やし，友達の表現方法に触れる機会を多く設ける必要がある。
- 「書く」ための「読む」，「話す」ための「書く」機会だけでなく，「書く」ための「話す」場の設定を工夫していくことが必要である。また，児童が意欲をもって取り組めるような言語活動についても，さらに研究していきたい。